

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

この科目は、保育実習Ⅱ（施設）のための必修科目である。多様な種類の児童福祉施設等で実習を行うために必要な基礎知識の講義、演習を行う。事前指導では社会福祉施設・機関で利用者や利用者家族へ相談援助の実務経験がある教員を中心に、社会福祉施設における実習の目的や内容、利用者の理解、実習を行う上での心構えやマナーをはじめ、施設の種別ごとに概要や重要な点を指導する。施設の種別は幅が広いので、共通する知識の講義とともに、必要に応じて施設の種別ごとにクラスを分けて授業を行う。事後指導では施設実習での学びを振り返り、社会福祉施設で行われる支援への理解を深めるように指導する。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	施設実習の基礎知識（目的、内容、課題、実習生としての心構え）
第 3 回	実習日誌の書き方① ー観察と考察について
第 4 回	実習日誌の書き方② ー模擬日誌を書くー
第 5 回	児童福祉法・障害者総合支援法と実習施設
第 6 回	児童養護施設と入所児童の理解
第 7 回	障害者支援施設と利用者の理解 ー障害の理解もあわせてー
第 8 回	〔外部講師〕施設職員の方のお話をうかがう
第 9 回	施設実習の実際について① ー利用者とのかかわり方ー
第 10 回	施設実習の実際について② ー利用者とのかかわり方と記録ー
第 11 回	実習日誌の書き方③ ー記録を書くー
第 12 回	実習日誌の書き方④ ー記録の添削を受けるー
第 13 回	実習と倫理 ー秘密保持の重要性についてー
第 14 回	実習前オリエンテーション ー実習に向けての準備ー
第 15 回	施設実習のまとめと今後の課題
第 16 回	総まとめ

到達目標

- ・社会福祉施設の意義、社会における役割を理解することができる。
- ・利用者の背景や生活課題を理解し、適切にかかわることができる。
- ・人権の尊重、自立支援、利用者の自己決定、秘密保持等をふまえた、利用者とのかかわり方を理解することができる。
- ・実習日誌を円滑に記入することができる。

履修上の注意

- ・欠席をしないこと。やむをえず欠席する場合は、必ず連絡をすること。また課題は必ず提出すること
- ・連絡なく欠席をした場合や課題の未提出が続いた場合は、実習を中止することもある。
- ・外部講師を招聘して授業を行うことを予定している。

予習・復習

授業ごとに実習先施設に関する資料の配布や連絡などを行うので、1回でも欠席すると実習に支障をきたすので留意すること。実習に際しては、実習先に迷惑をかけることがあってはならないため、遅刻・欠席を含めた授業態度を重視するので、十分に理解して授業に臨むこと。

課題が出た場合は、次回の授業時に必ず提出すること。

評価方法

授業での課題の取り組み方 30%、課題の提出状況 30%、課題の内容 40%
授業や授業課題にどのように取り組んだかが重要となる。

テキスト

- ・教科書名：保育士をめざす人のための施設実習ガイド
- ・著者名：河合高鋭・石山直樹
- ・出版社名：みらい
- ・出版年（ISBN）：2020年（9784860155032）